

第5期横浜市港南区地区センター 第2回指定管理者選定委員会 議事録

開催日時	令和8年8月24日（月） 午後3時40分～午後4時50分
開催場所	港南区役所5階 特別会議室
出席者	小室委員、長沼委員、藤崎委員、宮島委員、宮田委員（計5名）
欠席者	無し
開催形態	公開（傍聴人なし）、議題2（審議）から非公開
議題	はじめに（横浜市下野庭スポーツ会館の指定管理者の選定について） 1 面接審査 2 審議
面接審査 ・ 審議	1 下野庭スポーツ会館面接審査について 1 団体あたり、10分間のプレゼンテーション及び15分程度の質疑応答を行った。団体のプレゼンテーションの概要は次のとおり。 【プレゼンテーション概要】＜応募団体 一般社団法人こうなん区民利用施設協会＞ ・当団体が管理運営する10施設で蓄積された業務スキルやノウハウ、指定事業の企画等を情報共有し、業務改善に取り組んでいく。また、港南区民活動支援センターとも連携を図る。 ・コンプライアンス向上及び個人情報保護については、団体全体で検討・点検する体制を構築している。職員行動基準を定め、施設職員が常に自身の行動を振り返ることで、利用者から信頼を得られる施設づくりを目指す。また、施設での緊急時に備え、セキュリティ対策やAEDの設置・取り扱い訓練を実施し、適切な対応ができる体制を整える。 ・館長1名は地区センターを兼務し、スタッフをローテーションで配置した運用とする。 ・施設周辺の野庭、上永谷、丸山台及び日野エリアでは高齢化が進む一方で、年少人口割合は減少していることから、高齢者の健康づくりや地域交流、子育て世代への支援を重点的に進める。 ・多様な世代が共存する地域特性を踏まえ、区内唯一の無料スポーツ施設として仲間づくりや多世代交流の促進に取り組む。 ・利用促進策として、幅広い世代が参加しやすい指定事業の実施や近隣施設との連携によるPR、区民活動支援センターとの連携などに取り組み、5年後の利用者数目標を10,000人とする。 ・地域コーディネート機能に関する取組では、利用者や地域団体との関わりを通じて地域ニーズを把握し、指定事業の企画や新たな参加者・人材の発掘につなげ、地域のつながりづくりを推進する。 ・指定事業では「参加しやすさ」「新たな出会いと仲間づくり」「生きがいと潤いのある暮らしづくり」を柱として企画・実施し、地域人材や地域資源を活用しながら継続的な活動へ展開する。 ・施設及び設備の維持管理計画では、予防保全の考え方を基本とし、安全・快適な施設環境を保つとともに維持管理コストの最小化に取り組む。 ・収支計画については、効率的な施設運営と地域ニーズに応じた事業展開により安定した収入を確保する一方で、水道光熱費の抑制や小破修繕の内製化による維持管理コストの削減を図り、限られた財源を利用者サービスの向上に活用する。

【主な質疑内容】

<委員>

利用者数が減少傾向にある。事務局の方に伺うが、令和6年に開設した上永谷駅前コミュニティハウスに行ったことがあるか。もし行ったことがなければ一度見ていただきたい。

スポーツ会館としての歴史や特長はあるものの、新しい施設と比較されてしまい、その影響はあるため、本部事務局の役割が非常に重要だと考える。重点的な利用促進策をうかがいたい。

<回答>

上永谷駅前コミュニティハウスの中には入ったことがない。コミュニティハウス開設に伴い、下野庭スポーツ会館の令和6年度利用者数は前年度比で20%減となった。令和7年度は前年度比で3.7%の減少にとどまっている。利用者の中には、予約の取りやすさや使いなれた環境を理由に、利用してくださる方々がいる。

冷暖房は完備されていないが、利用者の方が一時的にクールダウンするための部屋としてミーティング室を開放している。また、施設の特長である屋外ひろばを活用し、屋外種目を実施している。館長やスタッフのホスピタリティあふれるサービスで運営を継続していきたい。

<委員>

入口が暗いという印象をもっている。地域に親しんでもらうため、施設のイメージを上げていくような工夫やPRが必要と考えるがいかがか。どのような施設なのか分からずに通りすぎてしまう人もいるはずなので、興味をもっていただけるような施策が必要ではないか。

<回答>

スポーツを主とした施設のため、スポーツ種目に関連する指定事業を中心としているが、近年は落語会やアロマクラフトなど、文化系事業も取り組み始めている。申込が満員になる事業もあり、新規利用者の増加や利用促進に繋がっていくのではないかと考えている。

<委員>

多世代交流では具体的にどのようなことを考えているか。また、全体的に指定事業の開催数が少ないように感じる。一般向けの事業がほとんどで、特定の世代に向けた事業はないようだが、なぜか。

<回答>

現状として高齢者による利用が93%で、地区センターに比べて圧倒的に65歳以上の利用が多い。若年層も呼び込みたいが、部屋の利用までには繋がりにくいと考えている。年に一度、施設が主催するお祭りにはこどもや親子連れが非常に多く来てくださっているが、日常的にご利用いただくためにこどもや親子づれを呼び込むような事業展開はできておらず、苦慮している。

<委員>

施設を知らない方が多いのではないか。施設を知っていただくための施策は考えているか。

<回答>

事例として剣道の利用が増えており、利用者数の下げ止まりに繋がっている。

<委員>

空手の利用はあるか。

<回答>

今のところない。今までやったことがないスポーツを取り上げることは一つの着眼点と思われる。気候の良い季節にイベントをやっていきたい。

<委員>

運営体制について、館長兼務で通常の業務対応はスタッフが主に行うと思うが、スタッフとの

連絡体制はどのようにしているか。

<回答>

スタッフ6名が三部制で運営している。館長は野庭地区センターから徒歩または自転車で緊急時でも駆けつけられるようにしている。また、団体全体で共通のソフトウェアを活用し日常的な情報共有やコミュニケーションを図っている。

委員>

利用促進が悩ましい一方で利用者数目標は意欲的な数字を掲げているが、どのような利用者層にリーチしていこうと考えているのか。

<回答>

部屋別利用状況によると、スポーツ室は減少しているが、屋外ひろばとミーティング室は増加している。ミーティング室は文化系の指定事業の開催により、利用者数の増加に寄与している。屋外でしかできない指定事業も第5期では取り組んでいきたい。

<委員>

アンケートによれば「知られていない」という声も多いが、どうやって知らせていくのか新しい考えがあればうかがいたい。

<回答>

自治会町内会との交流をより増やしていきたい。地域に根ざした活動をしている方々から、施設の利用促進を図っていただいたり、協働で事業をしたりできるのではないかと考えている。

2 審議

【委員意見】

- ・課題を認識し、改善に向けて取り組もうとする姿勢が見られた。
- ・スポーツに特化した施設でありながら、スポーツ以外の事業も取り入れるなど、利用者増加や利用促進に向けた取組が評価できる。
- ・下野庭スポーツ会館まつりの開催を通じて、利用者同士の交流を図っている点が評価できる。
- ・屋外ひろばを有しており、施設の特性を生かした事業展開が期待できる。
- ・指定管理運営は安定していると思うが、施設の認知度向上やPRについては更なる工夫が求められる。例えば、新しいスポーツの発信拠点とするなど、施設の特色を生かした取組に期待したい。
- ・近隣施設の開設や設備面の制約により利用者減少が見られる中、利用者確保に向けた具体的な対応策について更なる検討が求められる。
- ・子育て世代を対象とした事業や屋外ひろばの更なる活用について検討が望まれる。
- ・館長兼務の体制やスタッフによる指定事業の企画・実施には大きな労力を要する。事務局本部による踏み込んだ支援が求められる。また、補佐役の配置や地域とのコミュニケーションを担う人材の配置など、他施設の事例も活用し運営体制の強化について検討が望まれる。
- ・財務状況については、収入・利益ともに増加し、経営は安定していることが伺える。今後の方針としては、利用率の向上を図るとともに、指定事業・自主事業では利用者ニーズに合った企画を増やし、事業収入の強化を進めること、そして健全な支出管理を徹底することが重要だと考えられる。

【委員意見（その他）】

- ・指定管理料が抑制されている中で十分な人員確保が難しい状況にある。スポーツ会館の持続的な運営に向け、市・区によるバックアップや指定管理料のあり方について検討が望まれる。

審議結果	・一般社団法人こうなん区民利用施設協会を横浜市下野庭スポーツ会館指定管理者の指定候補者と する（612点/875点）。
特記事項	特になし